

中日両語身体語彙の対照研究

頼 錦 雀

第一章 序 論

中日両語では「漢字共有」という事実がある故に、よく「同文」といわれる。そして、中華民国での日本語教育において、語彙教育や語彙研究が無視され、文法教育に重点を置きすぎた傾向がある①ようである。しかし、「漢字共有」の言語現象が、本当に中国人の日本語学習者にプラスするのだろうか。これを説明するのが、この論文を書く理由である。また、この説明されたことが、中国人の日本語学習や日本人の中国語学習に寄与することを念願する次第である。

研究対象としては、中国の「国語」と日本の「共通語」における身体語彙、およびその身体語彙によって作られた合成語に限る。それは、身体語彙が外国人にとって誤用されやすいと思うからである。一口に身体語彙と言ってもたくさんあるから、このたびは、外から見られる「頭」、「手」、並びに外から見られない「心」を対象とする。また、それらの身体語彙による合成語も少なくないから、便宜上、中国語の方は『國語日報辭典』を、日本語の方は『新明解國語辭典』をもとにした。ただし、慣用的言い回しについては、中国

語の方は『中國成語辭典』を、日本語の方は『國語慣用句辭典』をもとにする。

研究方法としては、中日両語の音韻、形態、意味、慣用句について調べたうえで、それを対照比較し、その相異点、共通点を明示する。

注1 陳山龍「中日両国語の疊語」。

第二章 頭をめぐって

第一節 音韻的に

中日両語では「頭」を音韻的に見た場合、それぞれ違ったものがある。

まず、日本語では、「頭」は「あたま」、「かしら」、「トウ」などの読み方がある。そして、連濁化か略音化によって「がしら」、「ドウ」、「ド」、「ト」と言うような読み方が生じた(表一参照)。

筆者がとった標本では、音読みは104例あるのに対して、訓読みはただ32例ある。ここから、日本語の「頭」における造語が中国語に

表一

		読み方	語数
訓 読 み		あたま	12
		かしら	9
		がしら	11
音 読 み	漢 音	トウ	86
		ト	1
		ドウ	1
		ド	1
	吳音	ズ	12
	唐音	チュウ	1
		デュウ	2
合 計		136	

深く影響されていると言えよう。言い換えれば、字音語が和語より造語成分としての造語力が高い。又「頭」による造語の中には、重箱読みと湯桶読みと合わせて12例あるにすぎないが、外国人の日本語学習者にとって、頭の痛い種になると思う。

音韻的に見るとき、中国語の「頭」は一見日本語のそれより簡単だが、実はそうでもない。「頭」には、陽平調、陽平調ル化、輕声、輕声ル化との四つの読み方がある。しかも、

對頭〔tou〕 適当な相手。

〔not〕 敵。

のように、同じ形態でも、その発音の違いによって語の意味が違ってくるものがある。

日本語の漢語のアクセントと中国語の声調との関係について便宜上、二字漢語だけを対象にして、調べてみたが、「頭」が前部成分の場合、その後部成分の声調は一声、三声、四声のものがあるけれども、そのアクセントは平板調と起伏調が各々半分を占めている。そして、「頭」が後部成分の場合、その声調が二声だから、その前部成分の声調を問わず、アクセントが八割以上平板調に属する(例「敏頭」、「文頭」)(表二)。

表二

語 声 調		アクセント 数	二音節		三音節					四音節					延べ
			1	0	1	2	3	0,1	0,2	0	1	2	3	4	0,1
「成分」が前部	二十一		1		1				1						3
	二十三		2	2					2	2					8
	二十四			1			1		3			1		1	7
「成分」が後部	一十二		3	1					14					1	19
	二十二	1		1					16			2			20
	三十二	1							5						6
	四十二			5				1	13	1					20

こうみると、日本語では、「頭」を後部成分とする二字漢語は、そのアクセントが平板調に属する傾向がある、ということが分かった。

第二節 形態的に

形態的には、主に語構成のパターンによって分析したい。

中日両語の「頭」による造語を分析して、対照比較してみると、次のようである。

I、中日両語では共通のパターン

(イ)「頭」+名詞成分

日：頭身 頭目 など22例

中：頭目 頭領 など27例

(ロ)名詞成分+「頭」

日：初頭 先頭 など66例

中：木頭 日頭 など70例

(ハ)動詞成分+「頭」

日：出頭 没頭 など10例

中：找頭 植頭 など41例

(ニ)形容詞成分+「頭」

日：白頭 巨頭 など5例

中：大頭 巨頭 など13例

(ホ)数詞+「頭」

日：両頭 八頭

中：一頭(ル)

(ヘ)「頭」による合成語+動詞成分

日：二頭立て

中：到頭來 牀頭金盡 頭雞叫

(ト)「頭」による合成語+名詞成分

日：旋頭歌、接頭語 など6例

中：頭生兒 頭蓋骨 など10例

(チ)「頭」による合成語+合成語

日：寡頭政府 頭寒足熱 など4例

中：空頭支票 骨頭架子 など45例

(リ)「頭」+合成語

日：頭文字

中：頭半天

中日両語では、右述べたように語構成上対応している、「頭」による造語が少なくない。日本語の場合では、漢語が和語、混種語より多い。これは、前にのべた通り、日本語の「頭」による造語では、その字音語は和語より造語力が高いからである。

II、日本語特有のパターン

(イ)「頭」+動詞成分

頭蓋 頭書きなど6例

(ロ)「頭」+形容詞成分

頭重

(ハ)「頭」+形容動詞成分

頭でっかち

(ニ)「頭」+助詞

頭から

(ホ)接頭語+「頭」

小頭

(ヘ)数詞+「頭」による造語

一頭身 八頭身
(ト)接頭語+「頭」による合成語

土饅頭 偏頭痛

日本語特有のパターンに属する「頭」の造語は、数が少ないけれども、ほとんど和語であり、つまり日本語独特の表現である。

Ⅲ、中国語特有のパターン

(イ)「頭」+接尾語

頭子

(ロ)「頭」による合成語+接尾語

箭頭子 老頭子

(ハ)名詞成分+「頭」による合成語

竹字頭ル 雨字頭ルなど6例

(ニ)形容詞成分+「頭」による合成語

大舌頭 冤大頭など9例

(ホ)動詞成分+「頭」による合成語

出風頭 抓大頭など11例

(ヘ)副詞成分+「頭」による合成語

没骨頭 没頭腦

(ト)合成語+「頭」

獅子頭 窩窩頭など4例

(チ)合成語+「頭」による

生死關頭 骨子裏頭など8例

右述べた各パターンを、その機能と語素の文法的意味関係によって分析してみると、次の表三、表四のようである。

表三 「頭」による造語の機能と意味関係

品詞別 語数 意味関係	名 詞		形 容 詞		形容動詞		動 詞		副 詞		異なり語数		比率(%)	
	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日
並列関係	2	7	16				16		9	1	43	8	16.86	5.88
主従関係	139	103	8							1	147	104	57.65	76.47
主述関係	7	5	1			1		1	1	1	9	8	3.53	5.88
支配関係	14	9	5				31	5	8	1	58	10	22.75	7.35
付属関係	4	2									4	2	1.57	1.47
実質関係		3								1	0	4	0	2.94
延べ語数	166	129	30	0		1	47	6	18	5	255	136	100	100

表四 「頭」による造語の機能と語構成

語数品詞別 パターン別	名	詞		形	容	詞	形	容	動	詞	副	詞	異なり語数		比率(%)	
		中	日				中	日			中	日	中	日	中	日
「頭」+名詞成分	26		24	1									27	24	10.59	17.65
名詞成分+「頭」	70		64	3								1	73	65	28.63	48.15
動詞成分+「頭」	15		9	1					22	5	6	1	44	11	17.25	8.15
形容詞成分+「頭」	13		5	1									14	5	5.49	3.70
数詞+「頭」	1		2										1	2	0.39	1.48
「頭」の合成語+動詞成分	1		1	1							1		3	1	1.18	0.74
「頭」の合成語+名詞成分	10		6										10	6	3.92	4.44
「頭」+合成語	1		1										1	1	0.39	0.74
「頭」の合成語+合成語	3		3	17					16		9	1	45	4	17.65	2.96
「頭」+動詞成分			5							1		1	0	7	0	5.19
「頭」+形容詞成分			1										0	1	0	0.74
「頭」+形容動詞成分			1					1					0	1	0	0.74
「頭」+助詞												1	0	1	0	0.74
接頭語+「頭」			1										0	1	0	0.74
数詞+「頭」の合成語			2										0	2	0	1.48
「頭」+接尾語	1												1	0	0.39	0
名詞成分+「頭」の合成語	6		2										6	2	2.35	1.48
形容詞成分+「頭」の合成語	9		1										9	1	3.53	0.74
動詞成分+「頭」の合成語				2					9				11	0	4.31	0
副詞成分+「頭」の合成語				2									2	0	0.78	0
合成語+「頭」	4		1										4	1	1.57	0.74
合成語+「頭」の合成語	4			2							2		8	0	3.14	0
「頭」の合成語+接尾語	2												2	0	0.78	0
延べ語数	166		129	30	0	0	0	1	47	6	18	5	255	136	100	100

表五 日本語の「頭」の語義

存在場所〔人間、動物〕〔部分〕…	人間（動物）の首から上（先）の部分
形 状〔頭の形〕……………	ある大きさと形を持っているもの
〔前部に「顔」がある〕…	人間の首から上の、顔を除いた部分
	頭髮
関係的位置〔人間（動物）の一番上（先）の部分〕…	物の上端、先端
	最初
	リーダー
	あたり
	数量
	うわまえ
機 能〔思考力を有する〕……………	脳の働き
	重要なところ
	あり方

表三、表四によると、中日両語とも「頭」による造語において、意味関係では主従関係のものが多く、語構成では、「頭」が後部成分になりやすいのである。品詞別で対照比較すると、中日両語とも名詞が多い。特に、日本語では九割以上が名詞である。

表六 中国語の「頭」の語義

存在場所〔人間、動物〕〔部分〕…	人間（動物）の首から上（先）の部分
形 状〔頭の形〕……………	ある大きさと形を持っているもの
〔前部に顔がある〕……………	使いのこりのもの
	人間の首から上の、顔を除いた部分
	頭髮
関係的位置〔人間（動物）の一番上（先）の部分〕…	ものの一番上（先）の部分
	頂点
	第一
	順序が先であるもの
	リーダー
	うわまえ
	あたり
	数量
	条理、手がかり
機 能〔思考力を有する〕……………	人
	重要なところ
	実力
	関係
	つぎ目
	やりがいのあるもの
	味、境遇
	あり方

意味的に中日両語の「頭」による造語を見る場合、造語成分「頭」の語義を究めるのがねらいである。それを分析して整理すると、次の表五、表六のようである。

第三節 意味的に

中日両語における「頭」の語義を対照してみると、基本語義では、中日両語はほぼ同じである（表七参照）。

派生語義では、中国語の場合、

「頭」は「頭髮」を指すことがある。日本語の場合、「頭」は「頭髮」を指すとともに、「脳の働き」を指すこともある。この「脳の働き」を中国語に訳すと、「頭腦

日	中
頭	頭
顔	臉

（表七）

、「脳筋」でしかいいようがない、例えば、日本語の「石頭」を中国語で「死腦筋」という。

中日両語における「頭」の比喩的意義を対照比較してみると、次のような結果が得られる。

(1) 同じもの

(1) 物の一番先の部分を表すこと。

(2) 第一、最初という意味を表すこと。

(3) ある集団のリーダーであることを表すこと。

(4) 重要などころを表すこと。

(5) うわまえを示すこと。

(6) あり方を示すこと。

(7) あたりを表すこと。

(8) ある大きさと形を持っているものを表すこと。

(9) 数量を示すこと。

しかし、ここで言っておきたいが、いわゆる中日両語における「頭」の比喩的意味の同じものというのは、ただ中日両語において、「頭」ということばが同じ使い方があり、必ずしもこれによる造語のおのおのの形態も同じだとは限らないのである。

(ロ) 中国語にあって日本語にないもの

(1) あることの頂点。

(2) 条理、手がかり。

(3) 人。

(4) 実力。

(5) 関係。

(6) つぎ目。

(7) やりがいのあるもの。

(8) 味、境遇。

(9) 使いのこりのもの。

日本語にあって中国語にない「頭」の使い方はないようである。

第四節 「頭」による慣用的言い回し

日本語における「頭」による慣用的言い回しは次のように分類できる。

(イ) 個人や人々の運動性、機動性を表す表現（例：頭の上の蠅もおえない）

(ロ) 個人や人々の対社会的性格に関する表現（例：頭が高い）

(ハ) 個人の才能や脳の働きに関する表現（例：頭がいい）

(ニ) 個人の感情（例：頭がさがる）

(ホ) 個人の性格に関する表現（例：頭が堅い）

中国語には、右に述べたパターンのももある、例えば、(イ)改頭換面、(ロ)垂頭塞耳、(ハ)三頭六臂、(ニ)無頭蒼頭、(ホ)虎頭蛇尾。その外に、

(ヘ) 条理に関する表現（例：没頭没腦）というのがある。

中国語には、個人や一群の人々の運動性や機動性に関する「頭」の言い回しが15例あるのに対して、日本語には1例しかない。そして、中日語の個人や人々の対社会的性格に関する言い回しも14例対10対である。これは、漢民族には客観的な自我を保持する本能を持っているのに対して、大和民族は、個人を目立つようにすることを避けたい性格を持っている、ということからできた違いだと思う。

最後に、中日両語における「同形語」は、

(イ) 中日両語では意味が同じもの（心頭など18例）

(ロ) 中日両語では意味が一部だけ同じもの（出頭 露頭）

(ハ) 中日両語における意味が違ったもの（獅子頭など8例）
のようなものがある。

第三章 「手」をめぐる

第一節 音韻的に

日本語では、「手」の読み方は複雑である（表八）が、造語成分としての場合、訓読みが音読みより多い。つまり、その和語の造語力が字音語より高い。

表八

	読み方	語数
訓読み	て	312
音読み	シュ	70
慣用音	で	22
	た	8
	ちょう	2
	じゅ	2
	ず	1

表九

語 声 調		アクセント 数	二 音 節			三 音 節				語 数	
			0	1	1, 2	0	1	4, 0	0, 2		1, 2
成分の場合 「手」が前部	三十一				4	1		1		6	
	三十二				2	1				3	
	三十三		1		2					3	
	三十四		2		2	3	2		1	10	
成分の場合 「手」が後部	一十三		1			6				7	
	二十三		4	1		6	1			12	
	三十三		4	1		5	1			11	
	四十三	1	4		2	8	1			16	
語 数			1	16	2	12	30	5	1	1	68

中国語では、「手ル」、「手心ル」と「後半上」という声調変化のほか、特別なものがないようである。
日本語の「手」に関する漢語のアクセントについては、二字漢語を代表として調べてみると、次の表九のようである。

この表を見ると、日本語では、「手」を造語成分とする二字漢語は、「手」が後部成分である場合、そのアクセントが頭高型に属す傾向がある、ということが分る。

第二節 形態的に

語構成から見ると、中日両語における「手」による造語を見ると、第二章の「頭」と同じように、共通のパターンがある。

(1) 「手」＋名語成分

日：手帳 手相 など

中：手勢 手藝 など

(2) 「手」＋動詞成分

日：手代 手配 など

中：手套 手續 など

(3) 「手」＋形容詞成分

日：手広い 手酷い など

中：手鬆 手緊 など

(4) 名詞成分＋「手」

日：一番手 仕手 など

中：號手 能手 など

(5) 数詞＋「手」

日：一手 十手

中：一手 三隻手

(6) 動詞成分＋「手」

日：拍手 拱手 など

中：舉手 罷手 など

(7) 形容詞成分＋「手」

日：赤手 妙手 など
中：空手 硬手 など

(8) 「手」＋合成語

日：手細工 など

中：手指頭 など

(9) 動詞成分＋「手」の合成語

日：折手本

中：費手脚

(10) 「手」の合成語＋合成語

日：千手観音

中：手忙脚亂

右の共通パターンと中、日語特有のパターンを分析してみると、次の表十、表十一のようになる。

表十 「手」による造語の機能と文法的意味関係

語品詞別 数意味関係	名 詞		形 容 詞		形容動詞		動 詞		副 詞		異なり語数		比率(%)	
	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日
並列関係	4	7	6				5				15	7	10.64	1.68
主従関係	69	253	2			6	2	4	1		74	260	52.48	62.35
主述関係	3	103	10	13		10	2	12		3	15	141	10.64	33.81
支配関係		6	4				26	6			30	6	21.28	1.44
付属関係													0	0
実質関係		1					7	1		2	7	3	4.96	0.72
延べ語数	76	370	22	13		16	42	23	1	5	141	417	100	100
比率(%)	53.90	86.65	15.60	3.04		3.75	29.79	5.39	0.71	1.17				

第三節 意味的に
中日両語における「手」の語義を図表で示すと、次のようになる
(表十二、十三)。
基本語義では、中日両語における「手」はほぼ同じようである
(表十四参照)。

表十四

日	中
手	手
肩から指先までの何れの部分	肩から指先までの何れの部分

派生語義では、中日両語とも仕事の労働力を表す。

比喩的語義において、中日両語で同じものには、

(イ) 下等動物の口の近くにある棒状の突起

(ロ) 道具のつかみ持つように出来ている所

(ハ) 仕事の原動力としての人間

(ニ) 自分の掌握する者

(ホ) 手に持てる程度の

(ヘ) 手で何かをする

などがある。

ほかに、日本語では

(イ) 手袋

(ロ) 相手から攻撃されて受けた傷

(ハ) 自分の手もとにある駒

(ニ) 筆跡

表十一 「手」による造語の機能と語構成

語数 品詞別 パターン別	名詞		形容詞		形容動詞		動詞		副詞		異なり語数		比率(%)	
	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日
「手」+名詞成分	17	91			2		3				17	93	12.06	22.30
「手」+動詞成分	3	91				2	12				5	96	3.55	23.02
「手」+形容詞成分		2	6	12	7						6	21	14.89	5.04
名詞成分+「手」	33	62			1						33	63	23.40	15.11
数詞+「手」	2	2									2	2	1.42	0.48
動詞成分+「手」	6	66	3		1	33	7				42	72	29.79	17.27
形容詞成分+「手」	7	25	1		3						8	28	5.67	6.71
「手」+合成語	7	8									7	8	4.96	1.92
動詞成分+「手」の合成語		1	1			1	1				2	2	1.42	0.48
「手」の合成語+合成語	1	2	8			5					14	2	9.93	0.48
合成語+「手」		2									0	2	0	0.48
「手」+形容動詞成分		1			2						0	4	0	0.96
接頭語+「手」の合成語		10							1		0	12	0	2.88
連体詞+「手」		1									0	1	0	0.24
「手」の合成語+形容詞				1							0	1	0	0.24
形容詞成分+「手」の合成語		3									0	3	0	0.72
「手」+助詞											0	2	0	0.48
「手」+助詞+形容詞成分											0	1	0	0.24
「手」+副詞成分										1	0	1	0	0.24
副詞成分+「手」						2			1		1	0	0.71	0
合成語+「手」の合成語			2			1					3	0	2.13	0
「手」+副詞+合成語			1								1	0	0.71	0
「手」の合成語+名詞成分		3									0	3	0	0.72
延べ語数	76	370	22	13	16	42	23	1	5	141	417	100	100	

表十二 日本語の「手」の語義

存在場所	〔人間、動物〕〔部分〕……………	→人間（動物）の胸の上部から、左右に分れ伸びている部分
形 状	〔手の形〕……………	→下等動物の口の近くにある棒状の突起
	〔肘、腕、手首、手のひら〕……………	→人間（動物）の肩から、指先までの何れの部分
関係的位置	〔手の甲、指などがある〕……………	→道具のつかみ持つように出来ている所
	〔両足で立つ動物の胸の上部から左右に分れ伸びている部分〕……………	→手袋
		→相手から攻撃されて受けた傷
		→自分の手もとに掌握する者
		→自分の手もとにある駒
		→仕事の原動力
機 能	〔労働力を有する〕……………	→仕事の原動力としての人間
		→筆跡
		→方向
		→手に持てる程度の
		→手で何かをすること
		→類の中の、その種のもの
		→手の動作の回数
		→普通より程度がひどいことを表す

表十三 中国語の「手」の語義

存在場所	〔人間、動物〕〔部分〕……………	→人間（動物）の胸の上部から左右に分れ伸びている部分
形 状	〔手の形〕……………	→下等動物の口の近くにある棒状の突起
	〔肘、腕、掌、手の甲〕……………	→人間（動物）の肩から指先までの何れの部分
関係的位置	〔指などがある〕……………	→道具のつかみ持つように出来ている所
	〔両足で立つ動物の胸の上部から左右に分れ伸びている部分〕……………	→仕事の原動力
		→手で何かをする
		→仕事の原動力としての「人」
機 能	〔労働力を有する〕……………	→技能
		→みずから
		→自分の掌握するもの
		→手に持てる程度の
		→腕前に対する助数詞

- (中) 方向
- (ハ) 同類の中の、その種のもの
- (ト) 手の動作の回数
- (チ) 普通より程度がひどいことを表す
- などの語義があるのに対して、中国語では
- (イ) 技能
- (ロ) みずから
- (ハ) 腕前に対する助数詞
- などの語義がある。

第四節 「手」による慣用的言い回し

「手」による慣用的言い回しにおいては、中日両語とも次のパターンを有する。

- (イ) 個人や一群の人々の運動性や機動性を示す表現
日：手に入る
中：手不停揮
- (ロ) 個人や一群の人々の対社会的性格に関する表現
日：金に手を付ける
中：手忙脚亂
- (ハ) 個人の才能に関する表現
日：手に余る
中：妙手回春
- (ニ) 個人の感情に関する表現
日：手をもむ
中：手舞足蹈
- (ホ) 個人を超えた社会的事象に関する表現

日：手が込む
中：險遭毒手

中日両語とも個人や一群の人々の運動性や機動性を示す表現が多い。個人の感情については、日本語の方は中国語より豊富なようである。それに対して、個人の対社会的性格に関する表現においては、中日両語の用例語数の比例は十対一である。

最後に、同形語について述べたい。中日両語における「手」による同形語は次のようである。

- (イ) 中日両語で意味が同じもの（手澤など24例）
- (ロ) 中日両語で意味が違ったもの（手紙など6例）
- (ハ) 中日両語では意味が一部だけ同じもの（手足など4例）

第四章 「心」をめぐる

第一節 音韻的に

日本語では、「心」はその字音語が和語より造語成分になりやすい。連濁音について、次のような傾向が見られる。

- (イ) 音読みの場合、連濁が起らない
- (ロ) 訓読みの場合、連濁が起る

但し、例外もある——肝心、

	読み方	語数	延べ語数
訓読み	こころ	52	77
	ごころ	18	
	ここ	1	
	ごこ	6	
音読み	シン	160	166
	ジン	6	
延べ語数		243	243

信心、用心など。

中国語では、「心」のル化の現象が見られる、それはまんなか、或いは掌握の意味に使われるときのみの現象である、例えば、空心ル、花心ル、手心ルなど。

日本語の「心」による造語のアクセントについて、筆者の調査によると、表十六のようである。

表十六

語 声調		アクセ ン 数	三 音 節			四 音 節						延語
			0	1	0,1	0	1	3	0,1	0,2	0,3	1,3
「成分」 が前部	一十一		1		3	1		2				7
	一十二				8			2				10
	一十三		3		2			3				8
	一十四		7		12	3		3				25
「成分」 が後部	一十一	5	1		15			3		2		26
	二一	4		1	11	1		3		2	1	23
	三十一	1	1		6	1			1	1	1	12
	四十一	3	2	1	12		3	2		8	2	33
延べ語数		13	15	2	69	6	3	18	1	13	4	144

表十六によると、「心」が前部成分としての場合、そのアクセントが後部成分の声調によってそれぞれ違うが、「心」が後部成分としての場合、その声調が一声であるから、大部分が平板調に属する。

第二節 形態的に

中日両語では、語構成において、次の共通パターンがある。

(イ)「心」+名詞成分

日：心神 など

中：心痛 など

(ロ)「心」+動詞成分

日：心算 など

中：心得 など

(ハ)「心」+形容詞成分

日：心安い など

中：心細 など

(ニ)名詞成分+「心」

日：本心 など

中：本心 など

(ホ)数詞+「心」

日：一心 など

中：一心 など

(ヘ)動詞成分+「心」

日：専心 など

中：有心 など

(ト)形容詞成分+「心」

日：速心 など

中：快心 など

(チ)合成語＋「心」
日：求知心 など
中：自尊心 など

(リ)「心」の合成語＋名詞成分
日：強心剤 など
中：空心菜 など

(ヌ)副詞成分＋「心」の合成語
日：不用心 など
中：没良心

(ハ)動詞成分＋「心」の合成語
日：着心地 など
中：死心眼

(オ)「心」の合成語＋合成語
日：心機一転
中：心煩意亂 など

(カ)合成語＋「心」の合成語
日：意馬心猿
中：嘴甜心苦

右の共通パターンと中日両語それぞれ特有のパターンを分析すると、次の表十七、十八のようになる。

表十七、十八を見て分るように、中日両語とも名詞が大部分を占めている。また、日本語の方は、「心」が前部成分である語と後語成分である語は各々半分を占めているが、中国語の方は、六割半以上が前部成分になる。

表十七 「心」による造語の機能と文法的意味関係

語意 数 品詞別 関係	名 詞		動 詞		形 容 詞		形 容 動 詞		副 詞		連 体 詞		異なり語数		比率(%)	
	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日
主従関係	96	146		3	16			6		2			112	156	39.93	63.90
並列関係	17	11	11		20			1					48	11	17.27	4.56
主述関係	3	15	9	9	26	7				2		1	38	33	13.67	13.69
支配関係	3	15	41	23	13			1	1				58	28	20.50	11.62
実質関係		7	7	3	16			5	1	3			24	14	8.63	5.81
延べ語数	119	194	68	38	91	7		13	2	7		1	280	243	100	100

表十八 「心」による造語の機能と語構成

語 パターン別	品 数	詞 別	名		動		形容詞		形容動詞		副		連体詞		異なり語数		比率(%)	
			中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日	中	日
「心」+名詞成分			37	48	1	1			1						38	50	13.70	19.92
「心」+動詞成分			6	29	6	10				1			1		20	39	7.19	16.18
「心」+形容詞成分								9	6						9	6	3.24	2.49
名詞成分+「心」			40	46					2						40	46	13.31	19.92
動詞成分+「心」			3	3											3	3	1.08	1.24
形容詞成分+「心」			10	29	43	22	17			2					72	41	25.90	17.01
形容動詞成分+「心」			7	13	2	4	19		4						28	18	10.43	7.04
合成語+「心」			4	4											0	3	0	1.24
「心」の合成語+名詞成分			10	9											4	4	1.44	1.66
副詞成分+「心」の合成語							1		4						10	9	3.60	3.73
動詞成分+「心」の合成語				4	1		1								2	4	0.72	1.66
「心」の合成語+合成語			4		11	1	21								36	1	12.95	0.41
合成語+「心」の合成語				2	2		8								10	1	3.60	0.41
「心」+形容動詞成分									1		2				0	3	0	1.24
「心」+接尾語									1						0	1	0	0.41
「心」+合成語				1											0	1	0	0.41
名詞成分+「心」の合成語				2											0	2	0	0.82
「心」+形容詞+動詞				1											0	1	0	0.41
「心」+名詞+形容詞								1							0	1	0	0.41
「心」+動詞成分+助詞										3					0	3	0	0.41
「心」+動詞+形容詞										1					0	1	0	1.24
形容詞成分+「心」の合成語					1		2								3	0	1.08	0
「心」の合成語+形容詞成分							1								1	0	0.36	0
「心」+副詞成分+合成語							2								2	0	0.72	0
動詞+副詞+「心」の合成語							1								1	0	0.36	0
延べ語数	121	194	67	38	90	7		13	2	7	0	1	280	243	100	100		

表十九 日本語の「心」の語義

存在場所	〔人間、動物〕〔部分〕……………	→心臓
関係的位置	〔人体胸部の中にある部分〕…	→胸部内部または胃を指す →平面体の中央部 →立体物の内部 →最も重要な物、者、所
機能	〔感情、意志、思考の働き が基づくもととされる〕…	→脳の働き →考え →注意力 →気持、感じ →本性 →意志 →願望 →まごころ →思いやり →度量 →情趣を解すること →表現の意味あい →ものから感じとれた情趣

中日両語の「心」の語義は、表十九、二十のようである。

第三節 意味的に

表二十 中国語の「心」の語義

存在場所	〔人間、動物〕〔部分〕……………	→人間、動物の心臓
形状	〔心の形〕……………	→心臓の形
関係的位置	〔人体胸部の中にある部分〕……………	→胸部の内部を指す →平面体の中央部 →立体物の内部 →最も重要な者、物、所
機能	〔感情、意志、思考の働き が基づくもととされる〕……………	→脳の働き →考え →注意力 →感じ、気持 →本性 →意志 →願望 →まごころ →力 →思いやり →度量

基本語義では、中日両語とも心臓を指す。派生語義では、中日両語とも人間の胸部の内部を示す。比喩語義においては、

いる。

(イ) 脳の働き

(ロ) 考え

(ハ) 注意力

(ニ) 気持ち、感じ

(ホ) 本性

(ヘ) 意志

(ト) 願望

(チ) まごころ

(リ) 思いやり

(ヌ) 度量

(ル) 平面体の中央部

(オ) 立体部の内部

(ワ) 最も重要な者、所、物が共通のものであり、

(カ) 情趣を解すること

(ク) 表現の意味あい

(ケ) ものから感じとれた情趣

が日本語特有的のものであり、

(レ) 力

(ニ) にわたりの心臓に型どった装飾品

が中国語特有のパターンである。

第四節 「心」による慣用的言い回し

慣用的言い回しにおいては、中日両語とも次のパターンを持って

(イ) 個人や一群の人々の機動性を示す表現

日：心がけが悪い など

中：心織筆耕 など

(ロ) 個人の才能に関する表現

日：物心が付く

中：力不従心 など

(ハ) 個人の性格に関する表現

日：心が広い など

中：三心兩意 など

(ニ) 個人の対社会的性格を示す表現

日：心を堅くする など

中：心腸狠毒 など

(ホ) 個人の感情に関する表現

日：心がせく など

中：人心惶惶 など

(ヘ) 個人の性格を超えた自然現象に関する表現

日：たなごころをさす など

中：人同此心同此理 など

つまり、心理学的分類では、中日語の「心」における表現が対応している。

最後に、同形語について述べる。

(イ) 中日両語で同義のもの（心痛など41例）

(ロ) 中日両語で意味が一部だけ同じもの（心眼など3例）

(ハ) 中日両語で意味が違うもの（心地など6例）

その外、中日両語で意味が同じだが、日本語の前部成分と後部成分の語序が、中国語のそれと逆になるものもある。例えば、心酔する↓酔心、心身↓身心、意馬心猿↓心猿意馬 がそれである。

第五章 結 論

第一節 中日両語身体名詞を対照比較して

本論で対照比較したことによって、次の結論を下すことができる。

1、漢字共有という事実が、確かに中国人の日本語学習者や日本人の中国語学習者に親しみを感じさせるかもしれないけれども、時には、かえってその学習を阻害する。

2、中日両語では音韻的に対応していない。だが、各々持っている特徴が、外国人の学習者にとっては悩みのタネになりかねない。

3、中日両語では、単純語の場合に同じ漢字形を持っていたとしても、それによって作られた合成語は、その語構成が必ずしも同じではないし、その漢字形も同じとは限らない。たまたま、語構成や漢字形が同じだとしても、その機能や語素の間の文法的意味関係が必ずしも同じではない。

4、身体語彙の語義では、中日両語が多対多型①である。その中では同じものもあれば、違ったものもある。そして、それによる合成語は、たまたま同形語——同じ漢字形を持つ語——であっても、3で述べたことによって、その意味が同じとは限らない。

5、慣用的言い回しにおいては、中日両語では、ほぼ同じパターンを持つ。しかし、語彙の意味でこれらの用例を対照比較す

ると、日本語が中国語から借用したものの外に、その表現が全く違う。それに、各々の、同一パターンに属する用例の数もずいぶん違う。これは、本論で述べたように、漢民族と大和民族との民族性の違いから生じた現象である。

注1、国広哲弥の説によると、語彙構造の対応型には、(1)1対1型、(2)1対多型、(3)多対多型、との三つがある。『日英語比較講座3 意味と語彙』参照。

第二節 日本語身体語彙の学習における問題点——中国人の場合

上記対照比較の結論に従って、中国人が日本語の身体語彙を学習するときに、注意すべき問題点があげられる。

1、日本語には、固有の訓読みの外に、音読み、慣用音がある。単純語の場合は、藤堂明保氏が述べたように、外から見られる部分については、固有の日本語が使われ、内臓の名まえは中国語から借用した漢語——それは勿論字音語だが——が使われる①。しかし、造語成分としての場合は、必ずしもそうではない。例えば、「頭」では、むしろ字音語によむことが多い。

2、日本語の合成語には、重箱読みもあるし、湯桶読みもある。時には、連濁の現象が起る。しかし、これらには、何れもまたまった法則が見られないようである。それがゆえに、いつも中国人の学習者を悩ます種になる。

3、日本語の合成語には、中国語の「破音字」みたいなものがある。それは、同じ漢字形を持っていながら、その読み方が違

い、その意味も殆ど違うものである。これらの語には、やはり注意する必要がある。

- 4、アクセントについては、台湾の日本語学習者が、とかく日本語を、いわゆる台湾式日本語アクセント②に発しやす傾向があるらしい。しかし、本論で見たように、二字漢語の場合、そのアクセントが、その後部成分の、中国語での声調によって決められるようである。それが陰平、陽平のときは、過半が平板調に属するが、上声、去声のときは、過半が起伏調に属することが分かる。

- 5、中日両語では、単純語にも、合成語にも、ラドーが言う「同族語」や「欺瞞的同族語 (Deceptive cognates) ③」がある。よって、身体語彙による合成語が出た場合、まず、中国語の意味で理解することをやめるべきである。必ず、その真義をつきとめなければならない。また、中国語での表現をそのまま日本語に使うのは、誤用を起す恐れがあるから、注意すべきである。

- 6、中日両語では、その慣用的言い回しの表現が、全くといっていいほど違う。だから、中国人の日本語学習者にとっては、一番難しいものだと思う。この点にも、気をつけなければならない。

要するに、はじめから日本語を外国語として学習することが、賢明なやり方である。

注1、藤堂明保『漢語と日本語』ペ239〜240参照。

- 2、蔡茂豊「中国人の日本語における音声教育」参照。

- 3、ラドー『文化と言語学』(上田明子訳)参照。

参考文献

中国語の部分

- 1、穆敦謨 「『頭』字詞群的語義分析」 中國文化月刊 第八期 台灣東海大學 一九八〇
- 2、方師鐸 『國語詞彙學 構詞篇』 益智書局 一九七六
- 3、董同龢 『漢語音韻學』 廣文書局 一九七〇
- 4、國立編譯館 『國民學校常用字彙研究』 台灣中華書局 一九六七

- 5、何容主編 『國語日報辭典』 國語日報社 一九八一
- 6、趙元任 『中國話的文法』 香港中文大學出版社 一九八〇
- 7、中国語学研究会 『中国語学新辞典』 光生館 一九六九
- 8、蘇宗健等編 『中國成語辭典』 中友文化事業公司 一九七九
- 9、吳主惠 『漢民族的的研究』 台灣商務印書館 一九六八年
- 10、王天昌 『漢語語音學研究』 國語日報社 一九八〇

日本語の部分

- 1、奥村三雄 「漢語アクセントの一性格」 国語国文 三三一 二 一九六四
- 2、教書研東京国語部会、言語教育研究サークル 『語彙教育 その内容と方法』 麦書房 一九六四
- 3、金田一京助他 『新明解国語辞典』(第二版) 三省堂 一九七四
- 4、金田一春彦 『日本語』 岩波書店 一九五七
- 5、國廣哲彌 『意味の諸相』 三省堂 一九七〇
- 6、國廣哲彌他 『日英語比較講座 第三卷 意味と語彙』

- 大修館書店 一九八一
- 7、國廣哲彌他 『日英語比較講座 第一卷 音声と形態』
大修館書店 一九八〇
- 8、国語学会 『国語学大辞典』 東京堂 一九七〇
- 9、国立国語研究所 『現代雑誌九十種の用字用法漢字表』
秀英出版 一九六二
- 10、蔡茂豊 「中国人の日本語における音声教育」 『東吳日本
語教育』 第2号 東吳大学東方語文学会 一九七七
- 11、阪倉篤義 「語構成序説」 『日本文法講座I』 明治書院
一九五七
- 12、佐藤喜代治編 『国語学研究事典』 明治書院 一九七七
- 13、白石大二 『国語慣用句辞典』 東京堂 一九六九
- 14、鈴木孝夫 『ことばと文化』 岩波書店 一九七三
- 15、田中春美 「日英語対照研究の現状」 月刊言語 一九七九
- 16、田中春美他 『言語学演習』 大修館書店 一九八二
- 17、藤堂明保 『漢語と日本語』 秀英出版 一九六九
- 18、陳山龍 『日本語教育における語彙的研究』 鴻儒堂
一九八二
- 19、日本大辞典刊行会 『日本国語大辞典』 小学館 一九七一
- 20、文化庁 『日本語と日本語教育 語彙篇』 国語シリーズ別
冊I 文化庁 一九七二
- 21、星野 命 「身体語彙による表現とは」 『日本語講座第四卷
日本語の語彙と表現』 大修館 一九七七
- 22、松下大三郎 『改撰標準日本文法』 一九二八
- 23、山田孝雄 『国語の中における漢語の研究』 宝文館
一九四〇
- 24、山田孝雄 『日本文法学概論』 宝文館 一九三六
- 25、Robert Lado 『LINGUISTICS ACROSS CULTURES』
『文化と言語学』 上田明子訳 大修館書店 一九五九
- 26、世良正利 「日本語と日本人の発想法」 言語生活 231号
筑摩書房 一九七〇